

## 注記事項

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券	償却原価法（定額法）
その他有価証券	時価のあるものは決算日の市場価格等に基づく時価法 時価のないものは移動平均法による原価法

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

主たる商品	売価還元法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっています。
店舗の生鮮食品および貯蔵品	最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっています。

#### (3) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産	器具備品は定率法。その他の有形固定資産は定額法 なお、主な耐用年数は次のとおりです。 建物 8～31年、構築物 10～20年、機械装置 5～17年、器具備品 5～15年
リース資産	リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法
無形固定資産	ソフトウェア（自生協利用）については、利用可能期間（5年）に基づく定額法
長期前払費用	定額法

#### (4) 引当金の計上基準

貸倒引当金	債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については過去の貸倒実績率により、貸倒懸念債権および破産更生債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。
ポイント引当金	組合員に付与したポイントの使用に備えるため、期末において将来使用されると見込まれる額を計上しています。
賞与引当金	職員の賞与の支給に備えるために来期の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しています。
退職給付引当金	職員の退職により支給する退職給付に備えるため、当事業年度における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しています。 ① 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっています。 ② 数理計算上の差異、過去勤務費用及び会計基準変更時差異の費用処理方法 数理計算上の差異は、翌事業年度から10年定額で費用処理しています。 過去勤務費用は、発生事業年度から10年定額で費用処理しています。 会計基準変更時差異は、発生事業年度から15年定額で費用処理しています。 正規職員（エリア・専任）、福祉専門職職員については、簡便法による期末自己都合退職要支給額を計上しています。

#### (5) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しています。

#### (6) 貸借対照表、損益計算書、注記事項、附属明細書の金額は、千円未満を切り捨てて表示しています。

## 2. 貸借対照表に関する注記

- (1) 担保に供されている資産  
該当事項はありません。
- (2) 保証債務等  
コープネット事業連合 3,422,799 千円 日本生活協同組合連合会に対する仕入債務（連帯保証）
- (3) 事業連合に対する債権・債務
- |       |              |
|-------|--------------|
| 短期貸付金 | 215,200 千円   |
| 未収金   | 113,492 千円   |
| 立替金   | 15,563 千円    |
| 長期貸付金 | 846,200 千円   |
| 買掛金   | 3,118,496 千円 |
| 未払金   | 279,944 千円   |

## 3. 損益計算書に関する注記

- (1) 事業連合にかかわる取引高
- |       |               |
|-------|---------------|
| 仕入高   | 28,463,652 千円 |
| 分担費   | 632,666 千円    |
| 事業広報費 | 601,739 千円    |
| 委託料   | 273,727 千円    |
| 消耗品費  | 143,800 千円    |
| その他   | 228,700 千円    |

- (2) 特別損益  
固定資産除却損の内容は、次のとおりです。
- |        |           |
|--------|-----------|
| 建物     | 286 千円    |
| 機械装置   | 13,585 千円 |
| 器具備品   | 53 千円     |
| 解体撤去工事 | 3,755 千円  |
| 合 計    | 17,680 千円 |

- (3) 減損損失  
当事業年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	減損損失 (千円)
賃貸・遊休資産 1 件	賃貸・遊休	土地・その他	1,179
合 計			1,179

当生協は、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として事業所を基本単位としてグルーピングしています。土地の時価が著しく下落した事業所または事業活動から生ずる損益が継続してマイナスである事業所について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。資産の種類別の減損損失の内訳は以下のとおりです。

種類	事業所数	遊休資産の数	減損損失 (千円)
器具備品	1	-	1
土地	1	-	1,178
合 計			1,179

なお、資産グループの回収可能価額は、正味売却価額と使用価値のうち、いずれか高い方の金額で測定しています。正味売却価額については不動産鑑定評価基準を基礎として評価しており、その他固定資産については取引事例等を勘案した合理的な見積りにより評価しています。また、使用価値については将来キャッシュ・フローを2.0%で割り引いて算定しています。

(4) 法人税等

法人税等には、法人税、地方法人税、住民税、地方法人特別税および事業税を計上しています。

(5) 教育事業等繰越金

当期首繰越剰余金には、前事業年度の剰余金処分により繰越した教育事業等繰越金 50,000 千円が含まれていません。

## 4. 退職給付に関する注記

(1) 採用している退職給付制度

正規職員（エリア・専任）および福祉専門職職員を除く正規職員の退職の退職給付に備えるため、退職一時金制度および確定給付型企业年金制度（日生協企業年金基金第1制度および日生協企業年金基金第2制度）を採用しています。

なお、正規職員（エリア・専任）、福祉専門職職員は退職一時金制度のみを採用しています。

(2) 確定給付制度

① 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	3,274,530	千円
勤務費用	142,718	千円
利息費用	16,083	千円
数理計算上の差異の当期発生額	△26,143	千円
退職給付の支払額	△197,697	千円
期末における退職給付債務	3,209,491	千円

② 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	1,632,459	千円
期待運用収益	16,324	千円
数理計算上の差異の当期発生額	△19,436	千円
事業主からの拠出額	51,191	千円
退職給付の支払額	△86,513	千円
期末における年金資産	1,594,025	千円

③ 退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

積立型制度の退職給付債務	1,513,344	千円
年金資産	△1,594,025	千円
	△80,680	千円
非積立型制度の退職給付債務	1,696,147	千円
未認識会計基準変更時差異	△103,165	千円
未認識数理計算上の差異	△230,962	千円
未認識過去勤務費用	351,917	千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,633,256	千円
退職給付引当金	1,633,256	千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,633,256	千円

④ 退職給付に関連する損益

勤務費用	142,718	千円
利息費用	16,083	千円
期待運用収益	△16,324	千円
会計基準変更時差異の当期の費用処理額	103,165	千円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	102,015	千円
過去勤務費用の当期の費用処理額	△87,979	千円
その他	9,770	千円
確定給付制度に係る退職給付費用	269,449	千円

⑤ 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりです。

国内債券	2.6 %
一般勘定	24.3 %
短期資産	10.8 %
国内株式	5.1 %
外国債券	35.6 %
外国株式	8.5 %
その他	13.1 %
合計	100.0 %

(注) 「その他」は、伝統的な投資対象である株式や債券等への投資に代えて、安定的な収益をめざし金融市場の動向に左右されにくいヘッジファンド等へ投資しています。

⑥ 長期期待運用収益率の設定方法に関する記載

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しています。

⑦ 数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率	0.5 %
長期期待運用収益率	1.0 %

(3) 日生協企業年金基金第1制度について

正規職員(エリア・専任)および福祉専門職職員を除く正規職員については厚生年金基金から移行した日生協企業年金基金第1制度に加入しており、要拠出額を退職給付費用として処理しています。当年度の日生協企業年金第一制度への拠出額は、20,235千円です。

なお、日生協企業年金基金第1制度の積立状況および当組合の掛金拠出割合は下記のとおりです。

① 制度全体の積立状況に関する事項

年金資産の額	39,323,824 千円	(2017年03月20日)
年金財政計算上の給付債務の額	32,512,255 千円	(2016年03月末日)
差引額	6,811,569 千円	

② 制度全体に占める当組合の掛金拠出割合 0.83 % (2017年03月現在)

③ 補足説明

給付債務の額は2016年3月末日時点、年金時価試算額は2017年3月20日時点に表示しているため、1年のずれがあります。この差引額は、6,811百万円となっていますが、給付債務の額は1年分が追加されるため、差引額は減少します。2016年3月末日時点の繰越剰余金は5,563百万円で過去勤務債務残高はありません。

## 5. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産発生的主要原因別の内訳

繰延税金資産 (流動資産)

賞与引当金	43,141 千円
ポイント引当金	20,022 千円
未払事業税	18,353 千円
未払社会保険料	6,638 千円
その他	3,462 千円
合計	91,617 千円

繰延税金資産 (固定資産)

退職給付引当金	467,275 千円
減価償却超過額	146,581 千円
減損損失	152,134 千円

資産除去債務	82,364	千円
その他	5,054	千円
小計	853,411	千円
評価性引当額	△157,189	千円
合計	696,222	千円
繰延税金負債（固定負債）		
建物（資産除去債務相当）	17,935	千円
合計	17,935	千円
繰延税金資産（固定資産）の純額	678,287	千円

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときのその差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率	27.66	%
(調整)		
住民税均等割	2.89	%
評価性引当額	0.04	%
その他	△0.16	%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	30.43	%

## 6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

①金融商品に対する取組方針

必要な資金は主に事業活動によるキャッシュ・フローおよび組合員出資金で調達しています。資金運用については一時的な余裕資金を安全性の高い金融資産（定期預金・通知預金・国債・譲渡性預金）で運用しています。

なお、投機的な取引は、生協法施行規則第198条に基づき行っていません。

②金融商品の内容およびそのリスクならびにリスク管理体制

供給未収金に係る組合員の信用リスクは、組合員ごとの未収金管理を行い、リスクの低減を図っています。

有価証券および長期保有有価証券は、主に市場価格の変動リスクの低い譲渡性預金および日本国債を保有しており、保有状況については定期的に理事会に報告されています。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2017年3月20日における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については次のとおりです。

なお、関係団体出資金（貸借対照表計上額1,909,988千円）および長期保有有価証券に含まれる非上場株式（貸借対照表上額676千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難なため、下表には含めていません。

(単位：千円)

科目	貸借対照表計上額	時価	差額
現金預金	10,331,822	10,331,822	—
供給未収金	3,284,289		
貸倒引当金*	△9,722		
	3,274,567	3,274,567	—
有価証券および長期保有有価証券	2,099,932	2,120,560	20,627
買掛金	3,315,263	3,315,263	—

\* 供給未収金に対して計上している貸倒引当金です。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

- ① 現金預金・供給未収金・有価証券に含まれる譲渡性預金・買掛金は短期で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。
- ② 有価証券および長期保有有価証券に含まれる国債の時価は、取引先金融機関から提示された価格によっています（取引所の価格によって算定しています）。

(注2) 金銭債権および満期のある有価証券の償還予定額

(単位：千円)

科目	1年以内	1年超5年以内	5年超	計
現金預金	10,331,822	—	—	10,331,822
供給未収金	3,284,289	—	—	3,284,289
有価証券および長期保有有価証券	1,700,000	400,000	—	2,100,000

## 7. 賃貸等不動産に関する注記

当生協では、賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用に関して、対象物件は重要性に乏しいため、開示を行いません。

## 8. 資産除去債務に関する注記

### (1) 資産除去債務の概要

店舗やコープデリ宅配センター等の施設の一部は、不動産賃貸借契約および事業用定期借地権契約を締結しており、賃貸借期間終了における原状回復義務に関し資産除去債務を計上しています。また、一部の施設に使用されている有害物質を除去する義務に関しても資産除去債務を計上しています。

### (2) 資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を不動産賃貸借期間または有形固定資産の耐用年数と見積り、割引率は算定時点における対象期間に応じた国債利回り率を使用して資産除去債務の金額を計算しています。

### (3) 資産除去債務の総額の増減

当事業年度における資産除去債務の残高は、次のとおりです。

期首残高	329,912 千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	3,983 千円
時の経過による調整額	5,678 千円
資産除去債務の履行による減少額	△41,800 千円
期末残高	297,774 千円

## 9. 関連当事者との取引に関する注記

### (1) 事業連合

これに該当する取引はありません。

### (2) 事業連合の子法人および会員生協

これに該当する取引はありません。

### (3) 子法人等

これに該当する取引はありません。

### (4) 役員およびその近親者

これに該当する取引はありません。

## 10. 重要な後発事象に関する注記

これに該当する事象はありません。